

# COC Monthly News Letter

COC: Center of Community (地(知)の拠点)

Yamanashi Prefectural University

山梨県立大学の地域貢献活動を毎月1回お届けします。

2017年2月号

Vol. 33



グローバルな知の拠点となる大学  
未来の実践的担い手を育てる大学  
地域に開かれ地域と向き合う大学

## Topics

最新のニュース・話題など大学での出来事をお伝えします。

### ◇第6回やまなし市民後見人養成講座

1月28日(土)に、「第3期やまなし市民後見人養成講座」の第6回目が開催されました。今回は、「地域に根差す市民後見人の誕生のに向けて」をテーマに、甲府家庭裁判所主任書記官の佐藤晃一氏、笛吹市社会福祉協議会后見センターふえふきの今泉史氏、生活支援員の片石優子さん、市民後見人の丹澤節子さん、そして第1回の講師であったリーガルサポート山梨の小林恵氏を講師にお迎えしました。

また、今回が本講座の最終回ということで、25名の参加者の皆様に修了書の授与を行いました。今年度も多くの方に受講していただき、ありがとうございました。以下、受講した学生からのコメントです。

\*\*\*\*\*

市民後見人とは、金銭的な面だけでなく、本人の生活に寄り添ったきめ細やかな支援を行っていることが分かりました。後見人や生活支援者になる前に、講義や1年間の実習をすることによって、被後見人も後見人も安心して支援ができるしくみがあるということに驚きました。

(国際政策学部総合政策学科3年 平嶋華奈)



## イベント情報

気になる話題の情報やためになる講習会や研修会をご紹介します。

### ◇山梨観光人材育成シンポジウム

グローバル化の進行とともに、地域を訪れる外国人観光客は年々増加しており、山梨県においても外国人観光客への対応は重要な政策課題となっています。

本学では、地域におけるインバウンド観光への課題に対応するため、国際政策学部の中に「国際ビジネス・観光コース」を平成28年度より開設し、取り組みを始めました。また、同学部では地域限定特例通訳案内士副専攻課程を山梨県と連携して開設し、観光人材の育成を始めています。

本シンポジウムでは、インバウンド観光に求められる課題・取り組みについて共有するとともに、地域のインバウンド観光のあり方について参加者とともに議論します。

\*\*\*\*\*

日時：2016年3月4日(土) 13:30~16:30 開場 13:00 (展示あり)

場所：山梨県立大学 飯田キャンパス 講堂

参加費用：無料

お申込み：参加申込書をダウンロードの上、インターネット(QRコード)もしくはFAXでお申込みください。

URL：<http://www.yamanashi-ken.ac.jp/news/19647.html> FAX：055-224-5386

内容：(1) 展示 13:00~17:00

(2) パネルディスカッション：14:45~16:30「山梨の訪日客受入環境のあり方~求められる観光人材~」

(3) 基調講演 13:30~14:30「インバウンド観光の展望~中国市場の動向から~」

高羽 人志 氏 JTB China Corp. 中国総代表

パネリスト 山下 茂 氏 (一社)富士河口湖町観光連盟理事長・(一社)富士山国際観光協会代表理事

大森 舞梨乃 氏 Hostel Fujisan YOU・地域限定特例通訳案内士

新井 達司 氏 山梨県観光培国際観光交流課 国際観光振興監

澁谷 彰久 氏 山梨県立大学国際政策学部長

コーディネーター 野田 金男 氏 山梨県立大学国際政策学部 特任教授

## ＜日本国内におけるソーシャルワーク的支援に関する研究＞

人間福祉学部 福祉コミュニティ学科 助教 大津雅之

本プロジェクトに関しましては、12月のニュースレターでも田中謙先生におおよその概要をご説明していただいているので割愛させていただきますが、今月号はこのプロジェクトの特徴的な部分を少しだけご紹介させていただきます。

まず、このプロジェクトではソーシャルワークを「ソーシャルワーク的支援」とすることによって、普段ソーシャルワーカーにご協力いただいている保健師や教師といったソーシャルワーカーから見た他の専門職との相互の関係性に焦点を当てているところが大きな特徴であると言えます。そして、この特徴ゆえに、本学のソーシャルワークを専門とする教員と教育を専門とする教員とが本プロジェクトの骨格を担っています。本来、研究というと自らの専門性を大切にすることによって、異なる専門性を持つ者同士の接点が構築されにくい側面もあるように考えられます。しかし、このようなプロジェクトが遂行できているのも、本学の人間福祉学部ならではの活気の良さや風通しの良さにあると自負しています。

今年に入り1月以降も本プロジェクトでは、道志村で実際に様々な活動をされてきた保健師や教育関係に携わってきた方々を対象とした聞き取り調査が行われ、10名近い学生が道志村で行われた現地調査にも参加してくれました。

ソーシャルワーク分野においては、古くから「自己覚知」の重要性が言われていますが、そもそも、自らの在り方に気づき、自分とは何者なのかを知るためには、自らと違う他者の存在がなければなりません。今日では、多くの専門職が誕生していますが、そこで求められている各々の専門性を追求し確立するにあたっては、まずは、自らと違う専門性を持った専門職同士が相互に関係性を持つ中でこそ、達成できるものなのではないかと考えています。



道志村での打合せ

## 担当教員紹介

 個性派揃いの優秀な教員の意外な素顔を紹介します。

### ＜人間福祉学部 福祉コミュニティ学科 助教 大津雅之＞

本学では、福祉コミュニティ学科に所属し、ソーシャルワーク関連の授業・演習・実習・卒業研究（ゼミ）を中心に社会福祉士の養成を担当させていただいております。

本学に着任する以前は京都にいましたが、今でも実家のある神奈川が私の出身地です。山梨に来て早6年が過ぎようとしていますが、そもそも山梨と私とはご縁があったようで、幼い頃から家族旅行で様々な地を訪れていました。このため、清里から勝沼、道志に至るまで、非常に親しみのある場所が多いです。山梨で出会った多くの方々から感じたことは、いい人が多いということです。そして、いい人との出会いの多くは本学が結び付けてくれたご縁であったと言えます。山梨県立大学の窓からは大きな富士山が見えます。この富士山は、方向こそ違いますが、私が幼い頃より実家の窓から見ていた富士山にほかなりません。京都では富士山が見えなかったからなのか、それとも、40歳を過ぎた年齢からなのか、今では、山梨でも神奈川でもあたりまえのように見える富士山の存在に安堵している自分がいます。

今の私にできることとして、そんな山梨と富士山に、COCや研究を通してほんの少しでも恩返しできればいいなと思っています。



人間福祉学部／助教 大津雅之

編集後記

なんとなく過ごしているわけではありませんが、あっという間に1月が終わり2月に突入してしまいました。最近は何日もの流れるスピードの速さについていけない時も多く、戸惑いを感じることも度々あります。そんな時は知らないうちに慌ててしまい、ミスが出やすい状況になりがちです。そうならないよう、しっかりと計画を立てて、先を考えた行動をしたいと思っています。